

# かおす

## 神道青年会

奉祝 天皇陛下御即位二十年



# 和

創立六十周年を迎えて

静岡県神道青年会会長 矢田部 盛男

本日茲に、静岡県神道青年会は創立六十周年記念奉告祭並びに記念式典の佳き日を迎えました。

これも偏に、昭和二十四年の創立以来、関係各位の御理解御協力のもと、会の活動と実績を積み重ねて来られた先輩諸兄の御努力と御熱意によるものと、衷心より感謝申し上げます。

私たちはこの六十周年の記念事業にあたり、「和」信仰の原点を日本の未来へをテーマに定め、その主事業として「米作り」に取り組むことと致しました。六十年とは人生で言う所謂「還暦」であります。そうした大きな一巡りの「輪」の中で、今こそ自らの手で米を作り、その稔りを神に感謝し報恩の誠を捧げるといふ信仰生活を実践することで原点に立ち返り、和を重んじる日本古来の精神性を現代に喚起し、豊かな未来へと繋いでゆくことを目指したものです。

昨年一年をかけて会員自ら額に汗し泥に塗れながら、大らかな自然の中で大和の国振りを以て米作りに携わる中で得たものは、何物にも替え難い貴重な体験であったと思います。

ここに米作り事業を総括するとともに、この体験を基盤として、今後の更なる事業の発展を期して、御挨拶と致します。

# 米作り事業報告

静岡県西部神道青年会会長 村松 佳典

創立六十周年記念事業にあたり、西部地区は米作り事業を担当することになり、経験も無く、どれだけ出来るか不安もありましたが、事が進んで行くごとに、主題である「和」を身をもって学ばせて頂けたと思っています。

私なりの解釈としては、「米を作る事で人の輪、社会の和を造り、稲の成長を感じながら人の成長、会の成長を感じとり、稔った米の恵みに感謝し、合わせて人に感謝する」―体験を通してこれを実感できる、すばらしい事業ではないかと思えます。その様な中で個人的な話をさせて頂くと、私は大の酒好き?でもあり、その酒(米)を自分達で

作り、また作業の合間には、BBQ等の会員同士の懇親も行い、それぞれに「和」を感じとれたのではないのでしょうか。

BBQの時ふと思った事。静かな星空の下、豊かな自然に囲まれる田を前にして、手をかけ育つ稲を眺めながら、悠久の時を感じ飲む酒の美味いこと! 今の時代、最高の贅沢だと...

ごく普通の事かも知れませんが、そんな気持ちを改めて思い起こさせられ、何かそこに「惟神の道」の一端をみたような気がします。

最後に出来上がった御神酒での一杯は、格別だろうと楽しみにしています。「和」に乾杯



平成二十年  
三月二十八日(金)  
神饌田下見 於 浜松市西区佐浜町  
五月上旬~中旬  
籾種塩水選・苗作り・しろかき



五月二十八日(水)  
お田植祭準備 於 神饌田  
五月二十九日(木)  
お田植祭 於 神饌田  
嵐模様の中、午前十一時より村松常任理事が斎主を務め、お田植祭を斎行した。



午後からは天候も回復し、会員三十名によりイセヒカリの苗を手植えた。広さは一反半(十五a)。



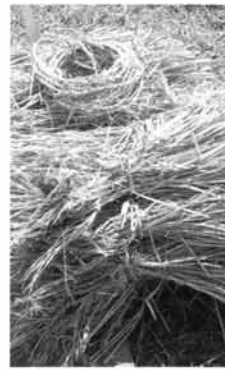
作業終了後はバーベキュー。会員同士の懇親を深めた。



七月二十三日(水)  
除草作業準備 於 神饌田  
七月二十四日(木)  
除草作業 於 神饌田  
快晴の下、会員二十名により田の雑草を除去。

八月三十一日(木)

案山子・スガイ作り 於 神饌田  
出穂期を迎えたので、案山子(顔は会長製)を立て、CDを吊るして鳥除けを作る。  
また、刈った稲を束ねる「スガイ」を綯う。会員二十名参加。



九月十九日(金)

神宮懸税奉納用稲穂刈取り  
荒天の中、矢田部会長ほか三名により、稲穂を刈り取る。



九月二十九日(月)

草刈り・ハザ作り 於 神饌田  
十月五日(日)  
抜穂祭準備 於 神饌田  
十月六日(月)  
抜穂祭 於 神饌田

午前十一時より村松常任理事が齋主を務め、抜穂祭を齋行した。  
小雨も上がり、会員三十名で刈る係、束ねる係、運ぶ係、ハザに懸ける係に分かれて稲刈り。約八俵の収穫。



十月十五日(水)

「第三十七回初穂曳」 於 神宮  
矢田部会長ほか八名参加。



十月二十七日(月)  
荒稲作り 於 神饌田  
県内神社奉納用の荒稲を会員二十名で調製した。



十一月十八日(火)

収穫感謝奉告祭 於 県神社庁  
矢田部会長が齋主となり、県神社館神殿にて奉告祭を齋行、会員十七名参列。



十二月二十三日(日)

県内宮司本務社(三八四社)新嘗祭に荒稲奉納  
また、別表神社へ精米を十kgずつ奉納。

十二月十九日(金)

御神酒完成  
収穫したイセヒカリを使い、土井酒造にて御神酒を調製。



会員から一言！

○種まきから初穂刈までいろんな意味で実りある一年でした。(哲)

○米作りの苦労と喜びにふれることが出来ました。(金)

○初めて一年を通して稲作りに参加し、収穫の喜びを実感することができました。(勝)

○二十年ぶりの田植えに稲刈り、食べ物の有り難さに感謝。(宮)

○やっぱり米だよ、ブラジルパンより(勇)

○田植えの作業は、本当に疲れました。農家の皆様のご苦労を実感致しました。(靖)

○白袴の汚れは、お田植祭の勲章です。(古)

○まささらな田んぼに入った瞬間のひんやり感！うんクセになりそうと同時に足が抜けなくて泣きそうでした。(渡)

○田植え中、リアルに尻餅をつき、ドロドロに。素で笑いをとりました。(高)



○大自然の中でのBBQ、田んぼの脇の野宿、青年会ならではの行動力が米作りを成功させたと思います。一生忘れません！(実は二回BBQ&野宿しました)(笑)(栄)

○爽やかな風吹く、田んぼで行ったBBQ、高級料亭をも勝る贅沢にて至福の一時！癖になりそう...(佳)

○草刈り作業後の一杯のビールは、刈った草が芽生える位旨かった。(青)



○BBQに、富士宮やきそばは必須です。(福)

○ウナギ、ギョーザもおいしかった！(浅)

○成功するのかどうか不安が多かったが、会員みんなが力を合わせ、見事達成できたときの一杯のビ-

ルは格別でした。(鬼)

○もう東部から田圃まで、ナビは要りません。(清)

○スガイ作りに悪戦苦闘しつつ、総代さんへの感謝を新たにしました。(野)

○スガイ作りで疲れた体を、近くの施設で癒したかったなあ。(淳)

○白丁の下に何を着るか悩み、少し恥ずかしい思いをしました。(澤)

○稲刈り機を担当した途端に、エンジンが上がっちゃった。(龍)

○稲藁がすごく硬く、束ねようとしたら手が切れました。(望)

○僕はお百姓様にはなれそうもありません。(森)

○御稔の豊作はいわずもがな、鬼頭先輩の釣果も実は楽しみでした。次は：大物を期待してるっス！(仁)

○愛情の一粒、田植はサイコー！日本人の心や(斉)



創立六十周年記念事業

(米作り以外)

○記念式典の開催

平成二十一年

五月二十八日(木)

記念奉告祭

創立六十周年記念式典

於 静岡県神社会館

祝賀会

於 ホテルアソシア静岡

○六十周年記念誌の刊行

今夏刊行予定

○ホームページの整備

○県内英霊顕彰施設に対する

啓仰活動

榊・高野横植樹ほか

発行所 静岡県神道青年会

静岡市葵区柚木

二五〇一

静岡県神社庁内

印刷所 三島印刷